論文輪読2 深層学習による 画像刺激時のfMRI脳活動データからの文生成

目次

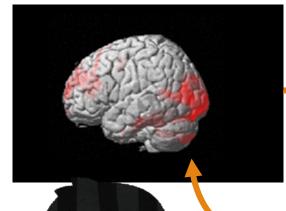
- 1. 何をやったのか?
- 2. 何を使っているのか?
- 3. 何がわかった?
- 4. 次は何を読めばいいんだろうか?-今回はやらない

何をやったのか?

画像刺激時のfMRI脳活動データを使って、 その刺激の画像のキャプションを生成する。

刺激画像







脳活動画像

キャプション

A man is surfing in the ocean on his surfboard.

何を使っているのか?

- 1. 刺激画像->画像特徴量->キャプション生成
- 2. 脳活動データ->画像特徴量
- 3. 脳活動データ->画像特徴量->キャプション生成

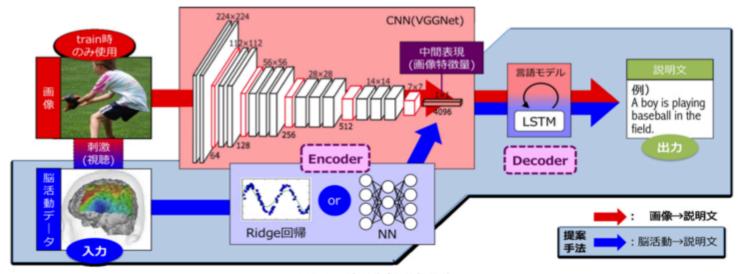


図 1: 本研究の概要

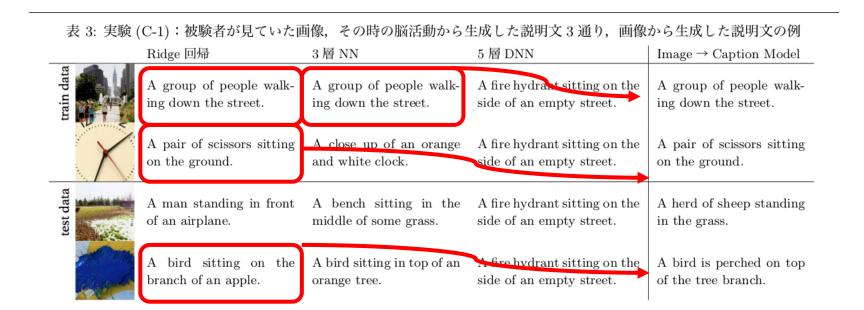
パラメータ

表 1: 実験設定 (詳細)

	(A) 画像→画像特徴量→説明文モデル	(B) 脳活動データ→画像特徴量モデル					
		Ridge 回帰	3 層 NN	5 層 DNN			
データセット	Microsoft COCO	動画刺激による脳活動データ					
学習量	414,113 sample×100 epoch		$4,500 \text{ sample} \times 1,000 \text{ epoch}$				
アルゴリズム	Adam	Ridge regression	stochastic gradient descent				
学習に関する	a=0.001, b1=0.9, b2=0.999, eps=1e-8	:	学習率: 0.01				
ハイパーパラ	勾配閾値:1	L2 正則化項: 0.5	勾配閾値:1				
メータ	L2 正則化項:0.005	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	L2 正則化項:0.005				
学習する	word embedding : word2vec			教師なし脳活動データを用いた			
パラメータ	VGGNet:事前学習済み・学習せず	標準正規分布乱数	標準正規分布乱数	AutoEncoder による事前学習			
の初期値	それ以外:標準正規分布乱数			$(7,540 \text{sample} \times 200 \text{epoch})$			
層ユニット数	各層 512	65,665 - 4,096	65,665 - 8,000 - 4,096	65,665 - 7,500 - 6,500 - 5,500 - 4,096			
語彙	頻出語 3,469 語						
誤差関数	交差エントロピー	平均二乗誤差					

何がわかった?結論

脳活動画像から生成した文と画像から生成した文



画像からのキャプションと同じものになるものをあった。

何がわかった?結論

	3,538 voxels	5,961 voxels		21,437 voxels	生成した説明文 6 通 65,665 voxels	89,206 voxels
	(c.c. > 0.2)	(c.c. > 0.15)	(c.c. > 0.1)	(c.c. > 0.05)	(all cortex)	(+subcortex)
					A man is playing tennis on the court with his racket.	A man is playing tennis on the cour with his racket.
A O	the ground with				A black and white dog laying on the ground.	

テニスをしている男の人が表現できている。

犬のことは書いているが、内容は間違っている。

何がわかった?

脳画像->画像特徴量では、3層ニューラルネットワークが一番いい

深層学習を用いることで、刺激を受ける脳活動データの自然言語分表現への変換を実現した。

学習に用いる脳部位を限定して学習したモデルによる文生成を比較することで、人間の脳における画像認識処理が脳全体で行われていることを示唆する結果を得た。

論文の読み方&まとめ方

